



営業部営業管理課
仁谷紗知子さん 67歳



毎日賞受賞作品
 中原中也詩集『山羊の歌』より「夏の日の歌」の一節



青い空は動かない、
 雲片(ぎれ)一つあるでない。
 夏の真昼の静かには
 タールの光も清くなる。

仁谷艸舟(そうしゅう)

書の達人



(写真提供：毎日新聞社宇部通信部様)

第65回毎日書道展「毎日賞」受賞！

山口県内から3人(全国から3万1000作品)

このたび、第65回毎日書道展において弊社営業部営業管理課の仁谷紗知子《雅号は仁谷艸舟(そうしゅう)》さんが「毎日賞」を受賞されました。全国より約3万1000点の作品が寄せられ、毎日賞に選ばれたのは230点。山口県内からの受賞者はわずか3名であり、その内の1人が当社の大ベテラン、御年67歳の仁谷さんの作品です。

受賞作品は山口県が生んだ詩人、中原中也詩集『山羊の歌』より「夏の日の歌」の一節で、選んだ理由としては、詩を声を上げて読んだところリズム感があつたからと仁谷さん。自分の得意な漢字やひらがながある詩を選ぶよりリズム感が大事とのこと。

この度の受賞に対し仁谷さんは「予期せぬ朗報に気が動転しました。まだ信じられません。そもそも書道を始めたきっかけは48歳の時、知人の紹介で故矢田桂雪さんが主宰する書道研究玄游会に入門したことです。桂雪先生が生きていらしたらこの受賞を喜んでくれたと思います。書道は始めたころは老後の趣味として考えていたのですが、10年前からは月2回の書道教室も始めました。書道はいつまでも楽しむことが出来て友だちもできるからとても楽しいです」とお話しされました。

公民館を会場に主宰される書道教室には弊社従業員の家族や女性社員など13名の門下生がお稽古に励んでいます。書道教室に参加している営業管理課の重本奈緒美さんは、「先生の評価は厳しいものの、教室は和気あいあいの中とても雰囲気も良く、楽しく技術の習得が出来ています」とコメント。

いつまでも若々しい仁谷さん、後輩の指導をお願いしますヨ！

書道教室の様子



第23回姫島トライアスロン大会 2013年8月25日



メンテナンスサービスも頑張っています。

入社2年目 19歳 特機部所属 NAGAMI TOMOYOSHI
THE IRON MAN 長見朋佳

2人目の「スゴイ人」は特機部(豆腐・海苔などの営業部門)で活躍中の入社2年目、19歳の長見朋佳さんです。高校時代に水泳部の顧問からトライアスロンへの参加を勧められ、地元で開催されたジュニアトライアスロンに参加した事をきっかけに、今も各地のトライアスロン大会に参加している強者です。短い距離から初め、徐々に距離を伸ばしながら取り組み、既に5回の出場を果たしているそうです。

(インタビュー；大分県の姫島トライアスロンに参加して感想は？)

姫島トライアスロンへは昨年に続き2回目の出場になりましたが、今回はアスリートと一般の部に分れていて、一般の部のスイム100m・バイク約9km・ラン5.5kmの距離の短い部門にエントリーしました。ところが、今回は台風の影響でバイクが中止となった為、スイム・ランのみの更に短い競技になってしまいました。次回のエントリーは、通常のスィム1.5km・バイク40km・ラン10kmの大会に参加しようと思います。

トライアスロンの魅力は終わったときの達成感は何論のこと、取り組む過程で体力面・精神面が鍛えられ、出場者とのコミュニケーション力も向上させる事ができることです。これからの仕事においても暑くて厳しい環境の中でメンテナンスすることもあり、バテない体力をつくり、そしてお客様方にしっかりと向き合い会話が出来る様に、より精神面等をしっかりと鍛えていきたいと思っています。